



三條北ロータリークラブ週報

ENJOY ROTARY!

ロータリーを楽しもう!

国際ロータリー会長 ヒュー M. アーチャー 第256地区ガバナー 吉野一郎

例会日

1989. 9 . 12

累計 No 139

当年 No 10

会長/平松利朗

幹事/稲田憲治

SAA/笹原勝治

例会日/火曜日 PM12:30~1:30

例会場/三條ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三條市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行事: 高齢者問題委員会

卓話「シルバー人材センター」(社)三條市シルバー人材センター

理事長 三浦栄市様

出席: 本日の出席 48名中34名

先週の出席率 48名中40名 83.33%

先週のメイクアップ: 9月3日 新潟東部ICFへ 平松利朗君 今井勝義君 本間茂雄君
大野新吉君 丸山誠一君 吉川吉彦君
木宮 隆君 高橋彰雄君 淵岡 茂君
齊藤 正君 芦田義重君 坂内康男君

6日 三條RCへ 樋口金占君

8日 新潟東RCへ 中条耕二君

11日 三條南RCへ 落合益雄君 村山誠一君

ゲスト:(社)三條市シルバー人材センター 理事長三浦栄市様

ビジター: 三條RCより 堀川政雄君 野村竹三郎君 大谷幸平君 広岡豊作君 広瀬昌寿君
外山雅也君 加藤紋次郎君

三條南RCより 石山莊一君 高島一男君 長谷川晴生君 荏沢喜一郎君

会長挨拶: 平松利朗

本日は高令者問題委員会の担当で、(社)三條市シルバー人材センター理事長の三浦さんをお招きし、「シルバー人材」のことについていろいろとお話を頂くことになっております。三浦理事長さんにはご多忙のところをお差繰りの上、おいでを頂きありがとうございました。後程どうぞよろしく願い申し上げます。男同士が寄り集まるとどんなことが話題になるか。どこで聞いたことか、或いは何かで読んだことか忘れましたが、まず10代ですと、学校のこと、友達のこと、そして今なら受験のことが多いんだそうです。20代になると結婚適齢期ということで「女友達」の話題が圧倒

一人暮らしの方、体の弱い方、これは面倒を見ていただかなくては成りませんが組織のなかで、隣近所のなかで面倒を見ていただかなくてはなりませんけれども健康な者達は申し上げましたように私たちは社会の、地域の担い手であるというところの考えを以てこの社会に参加することを願っているのです。そう申しまして、そういう点について私自身非常にやはり反省させられることが多いんでありまして家におりまして自分で行ってとればいいんだけど「おい、あれ持ってきてくれや、これ持ってきてくれや。」というような場面がどうも歳をとってきたらございます。地域の担い手となるには、少し気持ちとは違った行動をしているということを反省しているわけですがどうか年寄はいまそういう気持ちで指導されているまた中にはこのシルバーへきて働いてくださる方のように、よし手に唾をしてこれにとりかかっている方も段々多くなってきているわけでございます。何しろ老人問題、高齢化問題が時によってはきて世の中に色々問題を起こすようなことがあるわけですが消費税なんかその辺から丹を発しているような気がしておりますが老人会は今申し上げましたようにあれをしてほしい、これんしてほしいあれもいただきたい、これもいただきたいという昔の老人会ではないと、老人ではないと覚悟を新たに世の中に参加しよう、参加して時代感覚の内容に新しい勉強をして皆様といっしょにこの良い世の中をきづいていこうとこういう覚悟をしております。そんな私ども人材センターでございます。御用がございましたらぜひお申し付けいただきたいまた会員になる人を、会員になりたい人に声をかけてやっていただきたい、会員がただ今460~470でございますけれど非常に不足でございます。こんなわけでございますので今日は、こういうお話を申し上げながら皆さんにお願いにあがったわけでございます。どうぞよろしくお願いいたします。どうも失礼いたしました。

9月19日例会: 青少年活動委員会「ライラ研修セミナーに参加して」淵岡 茂君

9月26日例会: 第2回会員卓話「友情」江口 悟君

的に多くなります。30代は世帯を持ち、子供もできて、吾が子の自慢話に花を咲かせます。40代はと言いますと、男の厄年ということで肥り過ぎとか、腰の痛みとかの「健康」の話が増えて参ります。そして、50代。私の年代ですが、髪が薄くなり、白くなって「老後」の話がぼちぼちと出て参ります。本日の「シルバー人材センター」のお話はその老後を、第2の人生として、生甲斐を求め、積極的に生きている方々のお話であります。今後のためにも大いに参考にさせて頂きたいと思ひます。

幹事報告： 稲田幹事

◇県赤十字より献血について手のパンフレットが届いております。

ニコニコボックス：

坂内康男君 先週は欠席しましたが9月3日のIGFに参加してだいぶロータリーの仕組がわかった様です。幹事も欠席しない様に。

刈岡茂君 社内健康診断で太り過ぎを注意されました。正常の体重まで10kgの減量が必要との事。アルコールが良くない様です。皆様、健康管理によい方法があったら御教授願ひます。

小林満君

山崎勲君 捜していたものが見つかりました。

ロータリー財団：

山上茂夫君 相続問題で府中の母子寮を訪れました。貧しくても暖かい人達の手により健康で明るく子供達は無邪気に遊んでいました。この子達の将来を幸にと願ひて気持を財団へ……。

卓 話： 「シルバー人材センター」(株)三条市シルバー人材センター

理事長 三浦栄市様



私、ただ今ご紹介をいただきました三浦でございます、今日は、このように盛會な皆様の例會に出席させていただきました、私のおりまところのシルバー人材センターの話をさせていただくとても良い機会をお与えいただきまして感謝申し上げます。先程お話もございましたが、大変話題の多い時代だという、こういうお話でございました。話題だけにとどまっておればよろしいのですが、問題も非常に多いとこういう時代であろうかと思ひます。問題と申しますと、私どもが、日本が今直面致しておりますところの問題、これは海外にむかつては

貿易摩擦、經濟問題でございます。また国内においては、今の議題でありますところの高齡の問題、これであろうかと思ひます。この問題を私ごときがお話申し上げるには、少し大きな問題でありますけれど、利自身高齡者中の高齡者でございます。100迄もう15年あると私申してお

令は60才以上という当初は60歳から65歳ということでございましたが、お勤めになっている方が定年になられまして60才でやめるがもうつとめることはいやだけど、かといって仕事もしてみたいと、こういう人がなだらかにこの退職のあとの日々が送られるようにこういうことも願ひていたわけでございます。

今ではなかなか60才65才という方は若い方でございます。実はあまり見つからない、どうも80才近い人が多いようでございます。それだけに危険な作業はお引き受けをしません。また、既存のすでにその地方にありますところの、色々な仕事のさしつかえをしてはいけないとその仕事をやめるためにそうした仕事をしている人の労働条件に及ぼすことがあってはいけない、そういう仕事は遠慮しようということになっております。実は、この間あるところへ見学に行ってきました。私どもは、この障子は、襖張りというのはなかなかいい仕事でございます。行きました先には、既存の業者の方に影響があるということで、その業者の方が結束しまして県の方に申し出たという事であまりやっていないという、こういうことをこの間きいてきたのでございます。何もかもただ成績をあげればいいんだというようなことはやっておりません。しかし、三条は幸ひにして市民の方、事業所のかたがたのご理解を深めつつ先程申し上げましたところの179,00万という成績をあげておりまして現在県下では新潟がいちばん多い、その次は柏崎でございます。その次は三条でございます。長岡、上越を抜いておるという事業局も一生懸命やっておりますし、市民の皆さんの、事業所の皆様のご理解が大変深いということでございます。先程の話に関連いたしまして、庭木の冬がこいとか、選定とか言うものについてはこれは大崎の方にあります訓練所の、職業訓練所の先生にきいていただき教えていただいたのですが他の業者のかたに私、「どうだね。シルバー人材でこのような仕事をやっているんだが、あんたがたどうお思いですか」と聞いたら、いやあ、心のなかでなは笑わせるなどこんな気持ちでなかったのかと思うのですが「私どもはプロですよ。今まで一生懸命やって今までそういう仕事をしてもらわなかったご家庭にどうぞ一生懸命やってください。」こういわれた三条でございます。私は本当は、自分の生まれた土地ですけれど、よそへ行きますと三条の人というんでなく、三条もんと言われることもあるんですが今のお話を聞きましてなかなかやっぱり立派な考えを持っている人がいるんだと非常に三条に対して心強く、しかもこの高齡者事業団の集まりにつきましては、県単位で集まります。

北信越、福井、石川、富山、長野、新潟、この県が北信越、一年に一回集まりますて、色々研究をし、研修をしお話しをするわけでございます。その中にありまして私これだけの成績をあげている三条それをご理解いただいているところの三条ということであまり引け目を感じず出席させていただいている次第でございます。ご理解をいただくことはぜひ願ひしたいことでございますけれど老人自体が甘える老人であってはいけない。自分のできることは自分でやろうとこれはシルバー人材センターだけのことでありませんけれども老人として全国的に申し合わせていることは福祉の受手でなくて地域の担い手として働こうではないか、そういう覚悟を持つてうではないかということをお申し合わせながら老人は一生懸命に社会のあまりにやっかいにならないように、もっとも